

「涙のお手紙」と「笑顔のお手紙」

父の会相談役 梶原健次様よりお手紙を頂きました。ご紹介いたします。

R01/10/11（金）芋掘り遠足同行ボランティアに参加したら、平日の一日がつぶれてしまいます。ボランティア募集の案内を見たとき平日の一日、仕事に穴を開けて良いのだろうか？今年もまた、インフルエンザの季節がやってくる。子どもの看護休暇は使い果たしてしまったので、年次有給休暇を残しておきたい。そもそもこのボランティアって本当に必要なのだろうか？などと考えました。その矢先に、職場で「各種休暇の取得を推進しよう！」趣旨の資料が回って来ました。その資料の中の「ボランティア休暇」という項目に目が止まりました。「ボランティア休暇」と言えば、災害現場での活動等をイメージしていましたが、よく読んでみると、「通学路の学童整理ボランティア」等にも使えることが分かりました。そんな話、それまで聞いたこともありませんでした。読み進むと、「子どもの見守り」という項目もあったたのです。しかも、この「ボランティア休暇」は特別休暇なので、年次有給休暇は減らないのです。

「ボランティア休暇」についてインターネットで調べてみると東京都はボランティア休暇を導入した企業に助成金を出していることが分かりました。そして、この助成金を申請するまでの手続きを代行する会社まで存在していることが分かりました。「あ～なるほど、こういう話の流れで「ボランティア休暇」って話になっているんだ。へえ～知らなかった。」と驚きの連続でした。「あら？これなら、新渡戸の芋掘り遠足同行ボランティアにも使えるんじゃないか？」と思い、企画課に電話を掛け聞いてみたのです。そしたら「大丈夫です。その内容でも取得要件を満たしています。」との回答だったのです。これで、とりあえず、「年次有給休暇を残しておきたい。」という問題はクリアしました。「平日の一日、仕事に穴を開けて良いのだろうか？」という話も、「そもそも職場が休めって言うてるんだから良いんじゃないか？」と、クリアしました。

パパ友に聞いてみたら、「そりゃ警察官の梶原さんが同行してくれていれば、園の先生は安心でしょうね。一番適任ですよ。子どもの見守りってスペシャリストじゃないですか！頑張ってください。」とのことでした。「そりゃそうだ。確かにそうだ。やるしか無い。やるべきだ。」と思い、「芋掘り遠足同行ボランティア」に参加することにしました。それで、「ボランティア休暇」を申請して、芋掘り遠足に同行することになったのです。園から、バス二台に乗って小平のサニー農園まで向かいました。

青梅街道に止めたバスに園児を乗せるときに、子どもが飛出したりしないか、私としては、交通整理誘導のプロとして、全体を見渡せる位置に立って見守っていました。先生方の動きは、全く隙がなく、あらゆる方向に目を向けて、子どもたちの安全を図りながらバスに誘導していました。私としては、プロとして、全体を見渡せる位置に立って見守りをしていたつもりだったのです。でも、先生から、「梶原さん、そこは良いから、こっち見てください！」と指示されました。「あっすみません。分かりました。」と返事をして、全体を見渡せる位置から、バスに乗り込む直近の配置に移動しました。子ども達全員をバスに乗ったのを見届けて、最後にバスに乗り込みました。バスに乗り込むと、「2号車、園児○名、教員○名、乗車確認しました。」「はい！」「1号車、園児○名、教員○名、そして梶原さん、大丈夫です。全員乗ってます！」と先生方が阿吽の呼吸で人員確認をしました。バスの中で、子ども達に芋掘り会場での諸注意をするときには、「これから先生が、とっても大切なお話をします。みなさん話を聞く準備はできていますか？」と前振りをして、「いいですよ！」との子ども達の返事を待って、それから、先生は話し始めました。「なるほどね、こうやってやるんだ。」と感心しました。

芋掘り会場に着くと、先生から軍手とショベルを渡されました。ショベルとスコップって、東日本と西日本で呼び方が逆らしいです。私が言うショベルは、片手で使う小さいやつではなく、足を掛ける部分がある大きいやつのことです。「芋掘りって、ショベル使うの？」って思いました。私のイメージでは、手で掘るのだと思ってました。先生から、「こうやって、こうやって、ショベルを入れて、子どもたちが掘りやすいように掘り返してあげてください。端から順番にお願いします。」と説明を受けました。

一人につき、3株です。だいたい一人につき80センチぐらいです。広めにショベルを入れなきゃいけないので、一人分の場所を掘り返すのに、10回位はショベルを入れるのです。「こっちもやってくださ〜い。」「僕のところもやってくださ〜い。」「私のところも〜。」って、園児は40人います。40人×10回で、400回です。ショベルで掘り返す動作は、普段やる動作じゃないので、すぐに腕、背中、腰、足の筋肉が悲鳴をあげます。あっという間に汗びっしょりです。これ、意外とキツいのです。

昔、「あしたのジョー」で、主人公の矢吹ジョーが、少年院の中で、永遠に鍬で畑を耕すシーンを観ました。そのシーンを思い出しました。芋掘りが終わり、ふっと気がつきました。職場には、「何かあったら携帯鳴らしてよ!」と言っておいたのに、携帯電話は、リュックサックの中に入れたまま、畑の隅に置いていたのです。リュックサックが邪魔だったので、途中で畑の隅に下ろして置いていたのです。

「電話掛かってきてないかな?」と嫌な予感がして、携帯を取り出して見ると、予感が的中で、不在着信が一杯入ってました。まるでストーカー被害者の携帯電話みたいに不在着信表示で画面が覆い尽くされていました。「しまった、こりゃ、何かあったな。」と思い、恐る恐るかけ直してみました。すると、「ゴカラですか?ロクカラですか?」と言うのです。「ゴカラ?」と聞き直すと、「この前、ロクカラでちょっと辛すぎるかなって言ってたじゃないですか?今日はどうします?」って言うのです。「5辛、6辛」のことでした。カレーの注文だったのです。私が居ないと職場で支障が出るんじゃないかと心配していましたが、そんなことは全くなかったみたいでした。職場の人は、私が休んでいることにも気がついていなかったのです。

電話を切ると、先生から「じゃあ、今度は、このお芋をバスまで運んでください。」って頼まれました。本来なら、お弁当を食べてから帰る予定だったのですが、小雨が降ってきたので、園に帰ってから、お弁当を食べることになりました。それで、急いで、芋をバスまで運ぶことになったのです。芋が入ったビニール袋を掴みました。大きいビニール袋の中に、子ども達が掘り上げた芋が一杯はいっています。それを両手でそれぞれ持って、持ち上げようとしたら「え?何これ?」と思いました。重いのです。芋って見た目より重いのです。芋って、すごく、重いのです。ずっしりと重さが両腕にかかり、真っ直ぐ歩けない程でした。バスに乗って帰り、自宅に着いたのは、午後2時頃でした。

汗びっしょりだったので、とりあえず、シャワーを浴びて、あまりにも疲れていたのも、とりあえず横になりました。午後5時半には年少の長女を迎えに行かなきゃいけないので、一応午後5時に目覚ましを掛けておきました。途中で目が醒めると思っていたのに、目覚ましの音が鳴るまで熟睡していました。起きたとき、腕、背中、腰、足が、全身が筋肉痛でガチガチになっていました。背中の筋を、少し痛めていたようで、背骨から肩甲骨にかけて、引きつるような痛みが走りました。ものすごい疲労感でした。

園に着くと、そこには、いつもと変わらぬ笑顔で子ども達に接している先生方の姿がありました。一緒に芋掘りに行った先生方が、いつもと変わらない笑顔で子ども達に接していたのです。

先生方は、芋掘りに行ったときと同じ服でした。

小雨が降っていたので、濡れてしまったはずなのに、たぶん、着替える間も無かったのだと思います。それなのに、いつもと変わらない笑顔で子ども達に接していたのです。

一方、私は、疲れて3時間も寝ていたのです。先生達の笑顔を見て、「この人たちタフだな〜。」と驚きました。そして、思ったのです。もしも、この先生達が、シャベルで無限に芋を掘り起こす作業をしていたのなら。あの、重い芋を運ぶ作業をしていたのなら。

この、腕、背中、足、腰の筋肉痛、全身が疲労物質の塊になったようなこの疲労感、そして、背骨から肩甲骨にかけての引きつるような、この嫌な痛みを、僕と同じように、今、感じるはず。もしも、そうなっているのなら、この笑顔は出ないんじゃないかと思ったのです。

「役に立ったな。」「やって良かったな。」「このボランティアは、やる必要があるな。」

と確信しました。だから、また、来年も、このボランティアに名乗りをあげようと思います。

でも、今年みたいに1人だと、ちょっとキツいです。せめてもう1人、できればあと2人ぐらい一緒にやってくれれば、と思うのです。

我こそは!と思う人、体力に自信のある方、名乗りを上げてください。

どっちが早く、長い距離をスコップで掘り返せるか競争しませんか?

どっちが一度に多くの芋を運べるか競争しましょう!

*****先生達でこのお手紙を回覧をし、読んですぐの先生方のお顔は、全員が涙かスマイルでした。私はもちろん号泣でした。*****